

■高校野球のケーススタディー（第23回）■



一般財団法人兵庫県高等学校野球連盟

高校野球における公式試合や練習試合の中で生じたプレイの中で、“こんなプレイ、ルールではどうなるの？”といった疑問について、ルールの側面から解説します。

- 打球が1塁へ走り出した打者走者に触れましたが・・・さてどうなる？
秋季兵庫県高等学校軟式野球大会でのことです。

1死1塁のとき、打者は送りバントを試みました。軟式のボール特有の高くはねた打球が1塁方向へ飛び、1塁に走り出していた打者走者のヘルメット（後頭部）に打球が触れました。

打球に触れた場所は、ファウル地域であったようですが・・・この場合、どのような処置になるのでしょうか。

野手に触れていないフェアボールが、打者走者に触れた場合、打者走者はアウトになると規定されています。（規則 5.09(a)(7)）

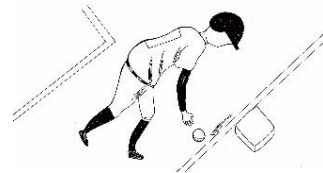
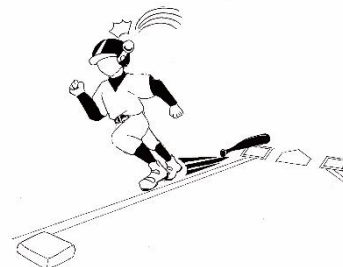
また、打者が、打つか、バントした後、1塁に走るにあたって、まだファウルと決まらないままファウル地域を動いている打球の進路を、どんな方法であろうと故意に狂わせた場合も打者のインターフェアとなり、打者がアウトになるとされています。（規則 5.09(a)(9)、6.01(a)(2)）

今回のケースでは、打球はまだフェアかファウルか決まらないまま、高く弾んでいる状況でしたが、1塁へ走ろうとしていた打者走者のヘルメットの後頭部に、ファウル地域で触れたことから、球審は故意に行ったものではないと判断し、「ファウルボール」の宣告をしました。

もし、フェア地域に入って来そうな打球を、打者走者が手で拾うなどして故意に打球の進路を狂わせたと審判員が判断した場合は、アウトが宣告されることになるでしょう。

攻撃側の選手は、打球を処理しようとしている野手の守備を妨げてはいけませんので、打球の行方には十分に注意する必要があります。

1塁または3塁のベースコーチが、コーチボックス付近に来たファウルボールを拾い上げている姿を目にすることがありますが、フェアの可能性のあるボールには触れないようにしましょう。



表題デザイン・イラスト協力：兵庫県立姫路工業高等学校デザイン科
表題デザイン：中川 早紀さん（3年）
イラスト：森 雛里さん（2年） 野口 真奈美さん（2年）